

推敲

① 賈島<sup>は</sup> 拳<sup>は</sup>に赴<sup>こ</sup>きて京に至<sup>いた</sup>る。

ロバ 乗り 作つ

② 驢<sup>し</sup>に騎<sup>よう</sup>り詩を賦<sup>思い</sup>して、「僧は推す月下の門」の句を得<sup>しぐさ</sup>たり。

の字

の字

③ 推すを改めて敲くと作さんと欲し、手を引きて推敲の勢を

伸ばし

しぐさ

する がまだ 決まらない  
作す も、未だ 決せず。

気がつかないで 郡の長官 の行列 ぶつかった

④ 覚え ずして 大尹 韓愈に衝たる。

そこで 詳しく 言う と 韓愈 言うことには

が よいだろう

⑤ 乃ち 具さに 言ふ に、愈 曰はく、「敲くの字佳し。」と。

賈島と韓愈は

そのまま 論じ合った

⑥ 遂に 轡を並べて詩を論ず。

(口語訳)

賈島は科挙を受験するために都にやってきた。(都大路を行くのに)ろばに乗りながら詩を作り、「僧は推す月下の門」という句を思いついた。「推す」の字を改めて「敲く」の字に直そうと思い、手を伸ばして門を押したりたたいたりするしぐさをしてみたが、まだ決しかねていた。うっかりして大尹の韓愈(の行列)に突き当たってしまった。そこで(賈島は)ありのままに申し上げたところ、韓愈は、「敲くの字がよい。」と言った。(二人は)そのまま轡を並べて(進みながら)詩について語り合った。